

学校教育目標		総合評価		
<p>「花とみどりと笑顔の学校」 ～あふれるあいさつ かよいあう心～</p> <p>10年後、20年後に大輪の花を咲かせるための今の創造 「今の努力が未来に続く、今を精一杯」</p>		<p>学校長の「『笑顔』を広げるためにあいさつを大切にしよう」との年度当初の投げかけにより、昨年度より継続してあいさつが響き渡る学校となっている。また、北小応援団の方と植えたフラワーロード花壇の花々が見ごろであり、地域の方にも喜んでいただいている。また、児童が創意工夫して整備した中庭では、学年を超えた児童同士や地域の方と触れ合う姿が見られる。</p> <p>後期は、さらに、10年後、20年後に大輪の花を咲かせる子どもの姿を見据えた教育活動への取り組みとして、生活科・総合的な学習の時間を主とし「自ら学びに向かう子ども」の姿を求めた授業づくりに力を注いでいく。</p>		
今年度の重点目標		成果と課題	評価	改善策・向上策
<p>よくふれあい…「友だちをいっぱいつくろう」</p> <p>・教師は、子どもが他者とつながることや子ども同士がかかわり合うことをサポートし、人に対する愛着心を育むことができたか。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・高学年が率先してあいさつを交わす姿が見られ、「1日に何度も」あいさつの声が響く学校となっている。</li> <li>・「ハッピースマイルな北小」を合言葉に児童会主催の運動会種目や遊びの広場、ハッピースマイルライブラリー等の行事を行い、学級・学年を超えた児童同士の関わりがもてている。</li> <li>・フラワーロードの活動、クラブ活動、授業での協働、行事への参加等北小応援団の方とともに活動する機会も増えている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「1日に何度も」に加えて「自分から」を意識し、さらにあいさつの響く学校づくりをめざす。</li> <li>・引き続き「ハッピースマイルな北小」を合言葉にする、主体的な活動を行う児童会を支えて行く。具対的には、11月には、児童が企画、計画、運営する「ハッピースマイル人権集会」を実施して、他者(児童同士、保護者、地域)との温かなかかわりを目指す。</li> </ul>
<p>よく学び…「自ら学ぼう」</p> <p>・教師は、「生活科」「総合的な学習の時間」における探究的な学習を重点にして、子どもたちの基礎学力を向上することができたか。</p>		<p>本年度の重点研究に位置付けることによって、生活科・総合的な学習の時間に対する教職員の意識が高まり、子どもたちは、生き生きと生活科・総合的な学習の時間に活動に取り組む姿が見られる。</p>	B	<p>生活科・総合的な学習の時間について、活動を友達と楽しむことに加え、『問い』をもち、一人一人が学びに向かって考え、思考錯誤し、やり遂げた喜びを味わえる授業づくりを目指していく。そのことが他教科の学びの向上にもつながると考える。</p>
<p>よく遊ぶ…「たくさん遊ぼう」</p> <p>・教師は、遊びの時間を大切にしたい働きかけをし、遊びを通して子どもたちの意欲や主体的に活動する力を育むことができたか。</p>		<p>子どもたちは、遊びの時間を楽しみにし、よく遊んでいる。さらに、遊びを通して一人一人の意欲や、主体的に遊びに没頭する姿を引き出していく。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの遊びの実態を把握し、その子に応じた遊びを楽しめるよう、全職員で支援していく。(子どもとともに遊び、感動する、子ども同士をつなぐ、遊びの中での表情やつぶやきを大切に)</li> </ul>

領域	重点	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
	よく	あいさつの響く学校づくり	「5つのあいさつ」(1日に何度も、相手を見て、会釈して、笑顔で、自分から)をおこなっ	・校内において朝のあいさつだけでなく、昼間のあいさつ「こんにちは」が定着	B+	・「自分から」という点で、積極的に行うことに課題がある。まずはあいさ

学校教育	ふれ合い よく学び よく遊び	かかわり合う場の確保	ている。	してきている。高学年の姿から低学年にもあいさつをしようとする意識が広がってきている。		つを交わしている事を認め、自信をつけていきたい。
		学年の枠を超えて友だちと交流する場の保証	北小応援団と連携した活動を積極的に行い、地域のもてる力を有効活用している。	・外部講師によるクラブ活動や地域の方とのフラワーロードの花植え、コミュニティルームでの交流や校外学習等を行ってきた。	A	・後期はさらに学習が深まっていくことが予想される。児童自らの願いを達成するために、様々な方とのかかわりから学ぶことを重要視していきたい。
		生活科・総合的な学習の時間の充実	学年内やペア学級さらには全校で友だちとふれあう活動・子どもたちのアイデアを生かした児童会活動を通して、互いに高め合う活動を行っている。	これまでであった制限が緩和されたことにより交流の幅が広がった。児童会活動の充実により、学年の枠を超えた関わりが必然的に生まれてきている。	B	ペア学級の取り組みについては、積極的に取り組めるよう、交流の場を意図的につくるなど、工夫が必要である。
		「ハッピータイム」(外遊びやかかわり遊びの日)の位置づけの継続充実と、遊びの時間の確保	以下の点を大切にした「生活科」や「総合的な学習の時間」の授業を行っている。 「自ら学びに向かう子ども～『問い』を基にした3つの視点を手掛かりにする探究活動を通して～ ・授業づくり(教師の仕掛けと支援) ・教科横断的な学び ・地域との協働	生活科・総合的な学習の時間のあり方について、本年度本稿の重点研究に位置づけ実践を積み重ねてきている。その中で子どもたちが嬉々として学習に取り組む姿が多く見られてきている。 《考える・思考する》と《学びの楽しさ》とが十分に結びついていない可能性がある。	B	考えることや思考することに学びの楽しさを見出せるような授業を子どもと教師とが一緒になってつくり出していかれるよう研究を深めていく。
		情報の発信	子どもと一緒に外遊びを含むかかわり遊びを楽しんだり、子どもが遊びに進んで取り組めるよう働きかけたりしている。	・ハッピータイムでは、楽しく友だちと遊んでいる姿が多くみられる。 ・児童や保護者の評価も高く、30分の遊びの時間の確保は効果的であると感じる。	B+	・ハッピータイムの時間に遊び方や友だちとの関わり方で困っている児童がいなかを常に把握していくことは必要である。  ・コミュニティルームの有効的な活用法の検討を推進していく。
学校経営	保護者地域との連携	情報の発信	教育方針・取組やその成果・連絡など、必要な情報を定期的に発信している。	・HPの更新や学年・学級通信の発行を通じて、学校での取り組みや子どもたちの様子を発信することができた。	B	・定期的な情報発信をつづけていく。 ・イラストや写真等の著作権に関しては、十分に気を付けて使用する。
		P T A・ボランティアとの連携	P T Aやボランティアとの連携を十分行っている。	・クラブ活動、フラワーロード、PTCA作業、総合的な学習の時間、校外学習等で地域の方々と関わり合うことができています。	A	・2学期以降も引き続き、地域の方々と関わり合う活動や学習を行っている。
		一人一人に寄り添った支援	全職員で児童を支え、一人一人に寄り添った支援をおこなっている。	・授業の中で必要に応じた個別の支援を行っている。授業や支援会議等複数の職員で児童支援を行っていくことができた。	B	保護者の方(児童)が望む支援とは何かを懇談や相談を通して聞き取り、具体的な支援に結び付けていく。